

家族ってなに

1週間、家族と離れての合宿生活。「家族って何だろう」距離を置くことで、家族と自分について考えさせてくれた。「うまく言えないけど家族っていいね」子どもたちはそう話した。

親元を離れて3日目 家族に手紙を書いた。

家族と離れて 家族について考える

親元を離れて過ごす合宿生活。洗濯、掃除など自分の身の回りのことは自分でやらなければなりません。普段であれば親が、食事や洗濯、掃除などしてくれて何もしなくて用意されている。食べ物も好き嫌いが言え、テレビやゲームもある。今は、そんな豊かな環境の中で子どもたちは日々を過ごしています。合宿生活の一つのねらいに、家族と離れた生活を送ることで、家族の存在について考えてほしいとありました。

合宿生活も3日目を迎えた6月22日の夜、家族に手紙を書きました。封筒の中には、返信用の封筒も添えて。

手紙を書く前に「今まで親に手紙を書いたことがある人はいいますか」と聞いたところ、21人中2人があると答えただけで、残りの19人は初めて親に手紙を書きました。

うまく言えないけど 家族っていいね

子どもたちは、3日間のことや今の心境などを手紙に書きました。その時の表情はとてもやさしい顔をし、そ



家族からの手紙は大切な宝物

の思いを手紙に込めていました。封筒には、家族から自分の宛ての返信封筒を入れて投かんしました。

3日後には、全員に家族から手紙が届きました。何が書いてあったのかは、教えてくれませんが、子どもたちは何度も家族からの手紙を読み返していました。

子どもたちに心境を聞くと「いつもいっしょにいるのが

当たり前だし、掃除、洗濯、食事を用意してくれる。離れて見ることでいろいろ考えました。うまく言えないけど家族っていいね」と話してくれました。

家族と子どもたち 考える良い機会に

通学合宿の期間中に保護者に話を聞くと「仲間とうまくやっているのか、どんな生活を送っているのか気になります。でも見に行くという意味がないので帰って来てからいろいろと話を聞きたい」と言っていました。

林間学校や修学旅行に行っても1週間離れるということはありません。この通学合宿を通して、子どもは家族について考え、家族は子どもへの思い、接し方について考える良い機会になりました。

楽しかっただけでも 将来の良い経験に

合宿生活も終わり、子どもたちは普段の家庭、生活の中に戻りました。「楽しかっただけで、帰ってきてても変わり



家族と離れてその存在を知る